

チャレンジ・アワード2022

双葉郡の週末を **Happy**に変える！

～地域密着型福利厚生による豊かな暮らしの実現～

明治大学政治経済学部 都市政策ゼミ
花積優喜 上田聖也 太田舜 瀧澤佳弘 大室慶太

双葉郡の地域課題・ニーズ

① 双葉郡における課題

① 急速に進む人口減少

○双葉郡8町村人口推移

2010年
72,822人



2020年
16,484人

② 単身居住者の増加

○双葉郡一世帯当たり人口

2010年
2.86人



2020年
1.69人

③ 民間消費の他地域への流出

民間消費が双葉郡からいわき市など他地域へ流出

消費した地域を問わず、
地域の住民等が消費した金額
41.63百万円 (双葉郡平均)
民間消費 (地域住民ベース) (一人当たり)

地域内に消費された金額
9.22百万円 (双葉郡平均)
民間消費 (地域内ベース) (一人当たり)

※地域経済循環 支出分析
(2018年)のデータ

④ 行政コストの増大(檜葉町データより)

4.95
いわき市

一人あたり
公共施設延床面積(m²)

28.1
檜葉町

公共施設等総合管理計画の主たる記載内容等を
とりまとめた一覧表(総務省)より引用

○人口1人当たり人件費・物件費等の決算額 (2020)

檜葉町
499,315円

全国平均
145,817円

全国平均の3倍以上

② アンケートから見た課題

アンケート調査の概要 (全回答者143人)



① 廃炉関係従事者
122名



② 檜葉町内企業従事者
21名

① 余暇活動の選択肢が少ない

双葉郡在住の単身者で、
休日自宅一人で
過ごしている割合

53%

その中でも**60%**
がライフスタイル
として人的交流や
自然との触れ合い
を希望

潜在的には自然と
のかかわりや人的
交流を求めている
ことを示唆

② 休日の活動・団体に対する情報不足

どのような教室・活動があるのかわからない
どのような施設や場所があるのかわからない
と答えた人の割合

52.6%

③ 多様なニーズがある

Q.定住してもよいと思える住環境は？

- ① 大型商業施設や職場へのアクセス性
- ② 公共交通・徒歩圏内の店舗・施設の充実

→多様なニーズに対応する必要性

③ ヒアリングから見たニーズ

地域の持続性を考えると行政のみ
でなく、**民間企業も連携**しながら
まちをよりよくしていく必要あり



いわき市在住
20代・女性

それぞれの町で同じような
ハコモノ公共施設がつくら
れている。**広域連携という
視点**が重要なのでは



60代・男性

コミュニティ活動についての
情報発信の機会が少ない



檜葉町役場職員

双葉郡内の潜在的ニーズは
把握しているが**集客・収益
の不透明性**が悩みで出店を
躊躇している



檜葉町へ移住
双葉郡で事業を検討

ヒアリングを通じて見えてきたニーズ

町の境界を越えた休日・余暇に
おける活動の選択肢の提供

双葉郡における集客や収益の
見込める顧客集団の形成

多様な市民活動・サークルと
住民を繋ぐ情報提供の場

私たちの提案

💡 「福利厚生」の地方創生にも役立つ新しい使い方を提案

一般的な福利厚生の利点・課題

福利厚生の利点

- 福利厚生の充実による人材確保・定着化の促進
- 連携店舗情報・割引クーポンの配布により、従業員に広く店舗等の情報提供や利用促進が可能

福利厚生の課題

- 提携店舗・割引クーポンは大都市部のものが対象であることが多く、**地方部では使われにくい**

私たちの提案する地域密着型福利厚生

主な対象：  復興・廃炉関連企業従業員  双葉郡内企業の従業員

地域密着型福利厚生サービスとは？

双葉郡での生活を楽しむ**魅力的な場所の選択肢**を増やすため、福利厚生の新しい使い方を提案する。

人口減少地域では、商圈規模が不透明で出店判断が難しい。

そこで、地域密着型の福利厚生として、加入企業の従業員に双葉郡内で使える共通クーポン・ポイント等の新たな仕組みづくりにより、**顧客集団の形成・見える化**を図り、多様な店舗・活動の誘致の実現を目指す。

また、地域での**余暇活動の情報収集・発信**や**活動支援**で多様な交流を生み出す。

具体的な取り組み

① 双葉郡内の店舗・公共施設の共通クーポン・ポイント導入



② マーケットの見える化を通じた多様な店舗の誘致



③ 余暇活動プラットフォームの創設



具体的な取り組み① 双葉郡内の店舗・公共施設の共通クーポン・ポイント制度の提供

取り組みのスキーム図

文化・体育・レクリエーションへの
法定外福利厚生費

¥24,828

(年間、従業員1人当たり)

2019年度福利厚生費調査結果(経団連)より
※住宅補助・人間ドック補助は別分野



約5700人

福島第一・福島第二原子力発電所で
作業する1日あたりの就業者数
(2022年8月末現在)

約5000人(見込み)

福島国際研究教育機構(2023年春設立)
広野火力発電所・地元関連企業など

年間
約2.52億円


地域密着型福利厚生法人
(R6年新設目標)


 双葉郡内企業の従業員

 復興・廃炉関係事業者

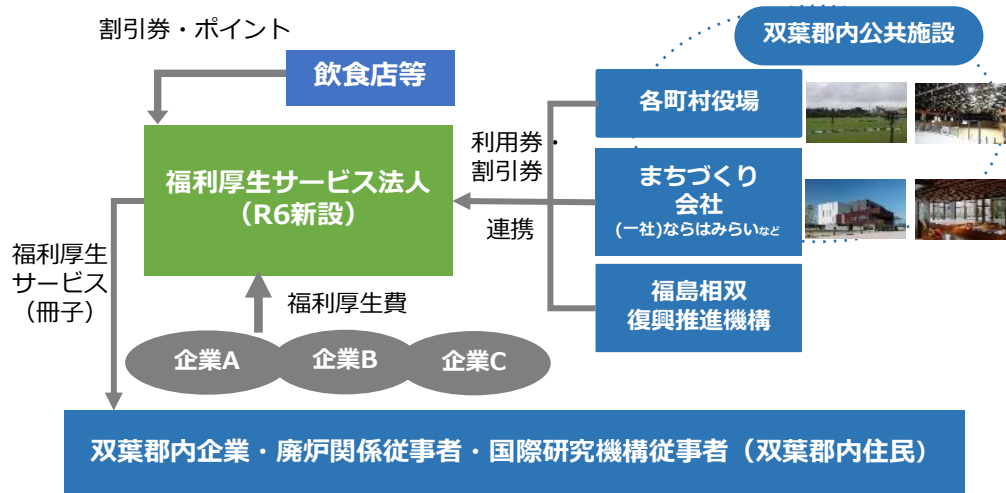
- ・ 明治大学
都市政策ゼミなど
- ・ まちづくり会社
(一社) ならはみらい
- ・ 双葉郡内各
町村役場
- ・ 合同会社アंक &
パートナー
etc...

①店舗・公共施設の共通クーポン・ポイント制度とは？

 双葉郡内の店舗・公共施設を町村の枠を超え連携し、利用可能に&共通割引券の発行

 活動・来店頻度に応じて双葉郡内共通ポイントを付与し、余暇活動へのインセンティブと地域経済活性化を両立する

豊富な地域資源を活用し、双葉郡内で
“余暇活動”と“地域経済”の相乗効果を生む



具体的な取り組み②：マーケットの見える化を通じた多様な店舗の誘致 ～トライアルショップの展開～
 具体的な取り組み③：余暇活動プラットフォームの創設

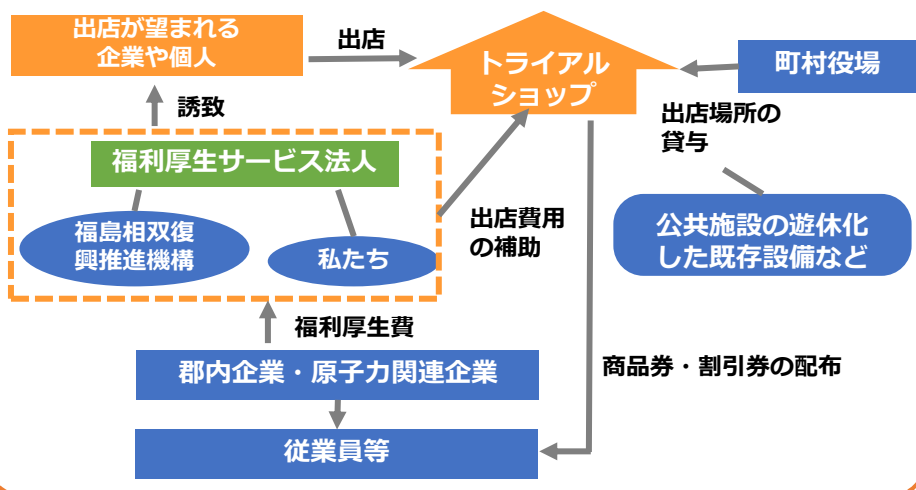
②マーケットの見える化を通じた多様な店舗の誘致

- 郡内の公共施設等を営業可能場所として提供
- 初期費用の支援による新規出店のコスト軽減
- チェーンまたは個人店舗の月替わりの営業によって多様な業種を展開

双葉郡での暮らしに選択肢が増えるように、新規事業立ち上げのサポート

○トライアルショップによるメリット

- 出店者**：実際に営業しながら、細かなニーズを調査出来る
- 住民**：日常の食事や買い物の選択肢が増える
- 町村役場**：郡内の公共施設等の既存設備の活用による遊休資産化の防止



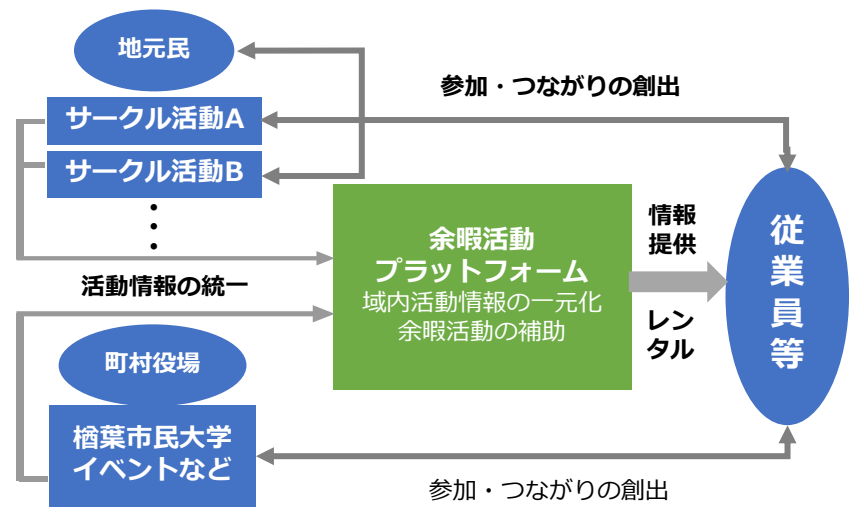
③余暇活動プラットフォームの創設

- 地域のサークル活動・施設の情報を集約したプラットフォーム
- 活動に必要なアイテムのレンタルなどを実施

新たな余暇活動を始めようとする人々をサポート

○余暇活動プラットフォームによるメリット

- 単身居住者**：新しい休日の過ごし方を見つけることができ「職場以外の人とのつながり」が生まれる
- 住民**：余暇活動の活性化、単身居住者と地域住民の交流の促進
- 町村役場**：豊富な公共施設の遊休資産化の防止、役場の市民活動に関わる広報活動の補助



実現までのロードマップ

市場調査期

2022年

事業立案期

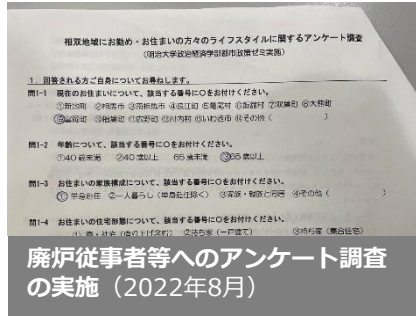
2023年(予定)

事業立ち上げ期

2023・2024年(予定)

実行期

2025年(予定)



楯葉町ガバメントピッチに参戦
⇒楯葉町で自分たちの提案を支援してもらうことを目指す
(2023年2月 予定)

合同会社アंकアンドパートナーと連携し、アンケート・サウンディング実施
※すでに実施決定済み
対象 ①廃炉関係従事者 ②国際研究教育機構関係者 ③双葉郡内企業従事者

私たちが地域おこしインターンとして参画 (2023.2024年度予定)

「打診先候補」に対するサウンディング・売り込み・掘り起こし

東京電力
福島第一原子力発電所
福島第二原子力発電所
福島国際研究教育拠点
住鉱エナジーマテリアル
NBS など

フィールドワーク
⇒都内の街並み再生事例(豊島区池袋) スマートシティ(港区竹芝)などで現地調査

ストリートピアノ・カフェの企画運営
⇒学内コンペにて助成金50万円を獲得

日々、都市政策ゼミとして、様々なフィールドで活動しています!

福利厚生サービス法人立ち上げ コンテンツ提供の開始

①双葉郡密着型福利厚生サービスの提供

②マーケットの見える化を通じた多様な店舗の誘致

③余暇活動プラットフォームの創設

毎年度、私たちが改善案のヒアリング・提案を担当

双葉郡の“くらしの復興”にもたらす効果

双葉郡全体に与える効果



多様な店舗・魅力的な個人店舗の出店促進



町の魅力向上による若年層・子育て層の移住促進



町の利便性向上による廃炉従事者等の定着



国内外からの高度専門人材の移住・定住促進



双葉郡内の滞留人口の増加



店舗数の増加・営業時間延長が可能に



双葉郡内商業施設の売り上げ向上

自治体財政に与える効果



民間資金の活用による税負担の軽減



自主財源の確保

他地域への波及効果（横展開へ）



地方における地域密着型の福利厚生サービスの充実による地方人材の確保・定着



民間資金を活用した新たな地方創生のツールの先駆け事例に

就業者・地域住民への効果



休日における余暇活動の充実



多様な人との関わりによる生活の質の向上



廃炉従事者等の双葉郡への愛着感の醸成



地域コミュニティの活性化・生活利便性の向上

地域密着型 福利厚生サービス

地域の協力企業・団体への効果



従業員のモチベーションの向上



労働生産性の向上



地域企業における離職率の低下



地域における働き手不足の解消

well-beingな双葉郡の未来像



個性的なお店がある町



出典
<https://urala.today/64479/>

バーやカフェなど、
気軽な交流ができる町



シェア工房やスタジオなど
様々な趣味の活動ができる町



出典
<https://noasobi-sdgs.com/projects/memuro/>

サークル活動が充実した町



・ **F-REI**
(2023年4月設立予定)
研究開発・産業化推進
高度研究人材育成の拠点
・ 福島第一原発
(廃炉まで30~40年見込み)
・ 福島第二原発
(2064年度廃炉完了目標)



自由に参加できる
イベントがある町



出典 <https://dongurimura.jp/leisure/trekking/>

アウトドアのアクティビ
ティが充実した町



出典
<https://smartagri-jp.com/management/1122>

パーソナルモビリティで自由に移動できる町



出典 : <https://pr-free.jp/2022/58244/>